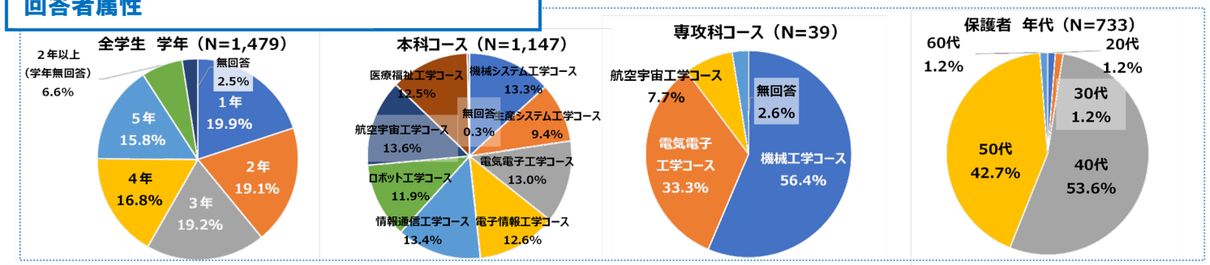
調査概要

【調 査 対 象】東京都立産業技術高等専門学校（以下「本校」という。）の本科の在校生（以下、「本科」という。）1,560 名、専攻科の在校生（以下、「専攻科」という。）72 名、在校生の保護者（以下、「保護者」という。）1,632 名。
【調 査 手 法】本科、専攻科：紙による調査方式。保護者：紙による案内、WEB による回答。
【回収数(率)】本科：1,479 件（94.8%）、専攻科：39 件（54.2%）、保護者：733 件（44.9%）
【調 査 期 間】本科、専攻科：令和 3 年 10 月 19 日(火)～10 月 29 日(金)、保護者：令和 3 年 10 月 18 日(月)～11 月 2 日(火)

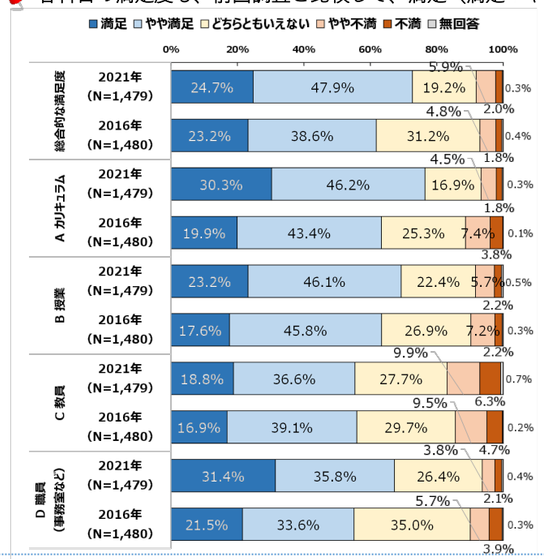
回答者属性

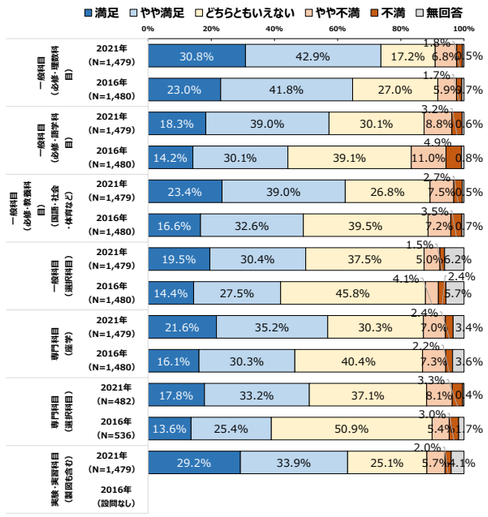


■調査結果のまとめ

学校や科目の満足度

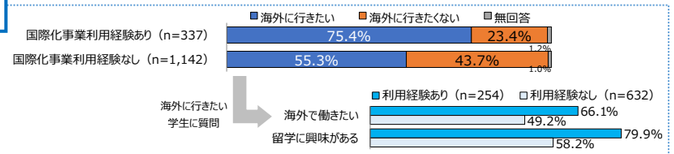
- 本科の学校への総合満足度（「満足」及び「やや満足」）は、前回調査と比較し、10 ポイント程度増加。各項目についても、「教員」以外の項目で満足した割合が増加。
- 各科目の満足度も、前回調査と比較して、満足（満足＋やや満足）の割合が増加している。





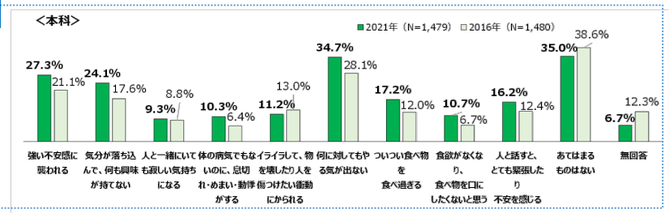
国際化事業と海外意向の関係

- 国際化事業（GCP、IEP、GCO、異文化理解プログラムのいずれか）の利用経験がある学生は、海外意向が 75%、そのうち海外で働いてみたいが 6 割強、留学に興味があるが約 8 割と高い。



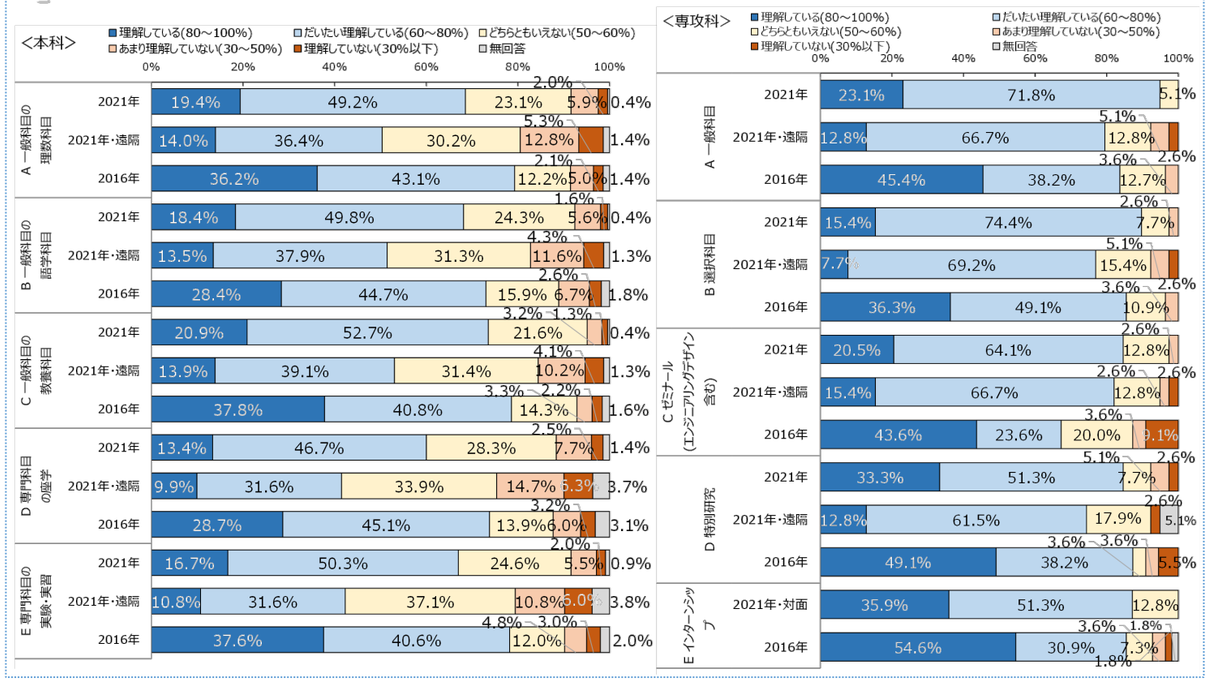
生活全般で感じる心身の不調等

- 生活全般で感じる心身の不調等について、前回調査と比べ「何に対してもやる気が出ない」「強い不安感に襲われる」「気分が落ち込んで何も興味が持てない」が 5 ポイント以上増加。コロナ禍により学生の心身の健康にも影響を及ぼしていることが伺える。



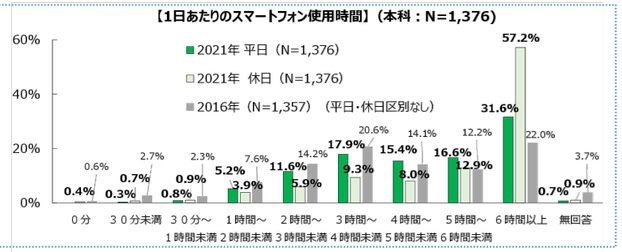
授業の理解度

- 遠隔授業による理解度は大幅な低下がみられたが、感染対策を行った上での分散登校により、全体的な理解度としては専門科目(座学、実験・実習)であっても、前回調査と比較して 10%程度の低下にとどめることができた。
- 専攻科は少人数教育の特色を活かした教員・学生双方の取組により、いずれの科目も理解度の低下を抑えることができた。



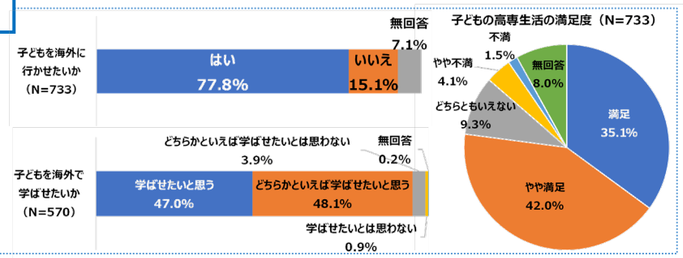
1 日あたりのスマートフォン使用時間

- 使用時間が「6 時間以上」が、平日は 3 割強、休日は 6 割近くと前回調査から大きく上昇。
- この他、授業内容が理解できない場合の対応について「インターネットで調べる」割合が増加、レポート作成時の情報源は「インターネット」が 7 割以上など、スマートフォン・インターネット利用率が増加している。
- 一方で、読書時間は減少傾向。



保護者の満足度等

- 子どもを海外に「行かせたい」と保護者は 77.8%。海外で「学ばせたいと思う」「どちらかといえば学ばせたいと思う」は全体の 9 割を超えている。保護者の海外志向はとても高い。
- 保護者のうち、子どもの高専での学校生活に満足している（満足＋やや満足）割合は 77.1%。



- ■ 2016 年度調査と比較して、「カリキュラム」や「授業」の満足度、各科目の満足度が上昇し、総合満足度も上昇。
- ■ 一方で、コロナ禍の影響もあり、「何に対してもやる気が出ない」「強い不安感に襲われる」など心身の不調を感じる学生も増加。
- ■ コロナ禍において、学生の授業理解度に低下はみられるが、遠隔授業や分散登校の活用により大きな低下を防ぐことができた。専攻科は理解度が向上している。
- ■ 休日は学生の半数が 6 時間以上スマートフォンを使用するなど、スマートフォン、インターネットの利用が増加。
- ■ 保護者の 9 割近くは子どもを海外で学ばせたいと思っており、8 割近くは高専の学生生活に満足。